



## IoT定置型蓄電システム導入による六甲山の新しいイベント空間・ワーキングロケーションづくりと災害に強い電源の実現

### 事業概要

IoT定置型蓄電システムを開発し、ROKKONOMADなどの六甲山上の施設や市内での屋外イベントへの電源供給を行う。  
これによりイベント開催場所の多様化による「創造を生むつながり（共創空間）」や屋外での長時間作業を可能にすることによる「自然調和型オフィス（没入空間）」、そして災害に対して強い電力インフラの実現を目指す。

IoT定置型蓄電システムを開発し、  
ROKKONOMADと共同で活用する事業を提案します。



システム開発	施設への導入
設置	タイニーハウスデザイン
管理	イベント企画・運営



- 自然調和型オフィス(没入空間)に  
電源を使用したタイニーハウスを施工  
ワーケーション施設として開放
- 創造を生むつながり(共創空間)に  
屋外イベントでの電源に活用
- 災害に強い非常用電源に  
非常用電源としての動作テストを  
住民参加のもと実施

## 事業詳細

神戸市では交通利便性、生活利便性の低さなどの課題を抱える六甲山上のスマートシティ構想を推進しているが、山上のビジネス交流拠点ROKKONOMADでは①「自然調和型オフィス（没入空間）」を実現する上での電源へのアクセスの乏しさ②「創造を生むつながり（共創空間）」を実現する上での、屋外イベント会場の不十分な電源設備によるイベント内容の制限③災害に対する電力インフラの脆弱性といった課題を抱えていた。

ROKKONOMAD及びチームクラブトンの協力ののもと、IoT定置型蓄電システムとソーラーシステムを組み合わせたタイニーハウスを開発し、これらの施設やイベントへ導入することで、上記のような課題がどの程度まで解決可能かを検証した。

### 参加者

1. FARM to FORK参加者；一般客（主にファミリー層）90名
2. ROKKONOMAD参加者；ROKKONOMADスタッフ、及び会員様のべ10名
3. SDGs CHALLENGE参加者；一般客（3/19実施）

### 実施期間

令和3年8月1日～令和4年3月19日

### 実施場所

ROKKONOMAD / FARM to FALK 2021 / SDGs Challenge



## 検証結果

### ■ユニークなワーケーション体験

＜自然調和型オフィス（没入空間）としての活用＞

- ・神戸市FARM to FORK 2021にタイニーハウスAを出動。約90名の方に好評いただき有効性確認。
- ・六甲山上ROKKONOMAD内に簡単設置&解体のタイニーハウスBを設置し、自然調和型オフィスを作製&使用体験し有効性を確認。現在も活用継続中。

### ■災害時でも安心できるインフラ

＜災害に強い非常用電源の整備＞

- ・合体してよし、バラで使ってよし、大容量2kWHのブロック型蓄電池を開発し、タイニーハウスA, Bに実装しながら自然エネルギーのみによる電源サポートを実証することで有効性確認。

### ■よりワクワクできるイベント体験

＜創造を生むつながり（共創空間）として活用＞

- ・一般参加が可能なSDGs Day for Global ChallengesにタイニーハウスAを出動し、イベント全体の電源をサポートし有効性確認。

## 根拠・分析結果



FARM to FROK 2021での活用の様子

ROKKONOMADでの活用の様子



合体可能なブロック型蓄電池

SDGs Challengeでの活用の様子

## サービス実装の目途・目標 ※もしくはサービス実装に必要な支援や課題等に関する記載でも可

- ・コアとなるブロック型蓄電池とソーラーシステムを備えたタイニーハウスの組み合わせは、本検証結果からあらゆる用途へ活用できることが分かったので、今後も継続的に多様な用途で実践しつつ進化させていくことが必要と感じた。
- ・今回ブロック型蓄電池の専用アプリも開発しており22年度中に実装を図るが、その目的は利用のしやすさや品質の確保とともに、リースや使用量による課金などビジネスモデルの検討も含まれる。
- ・ハード&ソフトまたビジネスモデルの検証のためにも、特に22年度は電源が必要なイベント等、出動できる機会があれば積極的に出動したい。